

学会・研修会印象記

全国回復期 リハビリテーション病棟 連絡協議会 第17回研究大会 in 長崎

2011年2月18日・19日
長崎ブリックホール, 他

北山朋宏

(社会福祉法人こうほうえん

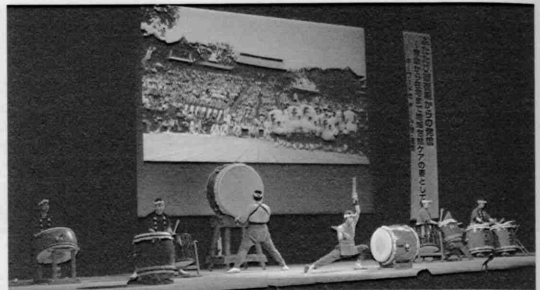
錦海リハビリテーション病院, 作業療法士)

2011年(平成23年)2月18日(金)~19日(土)の2日間, 長崎市の長崎ブリックホールにて「全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 第17回研究大会 in 長崎」が開催されました。会場となった長崎市に到着した日は, 2週間近くにわたって行われた「長崎ランタンフェスティバル」の最終日ということで, 大変な賑わいでした。雨の中, わずかな時間でしたが, 異国情緒を味わうことができました。

開会式はステージ上で日本3大祭りの一つ「長崎くんち」の太鼓で盛大に幕を上げ, これからはじまる研究大会に華を添えていました。

大会長講演として, 長崎リハビリテーション病院院長の栗原正紀先生より「これからの地域医療と回復期リハビリテーション病棟の存在意義—その重要な位置づけを発信」について講演を聴かせていただきました。大会キーワードが「チーム・質・連携」ということもあり, 口腔ケア一つをとっても, ただのルーチン業務にならず, いかに質を高めるかといった話を徹底的にされていました。また現在, 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会で検討事項とされている「病棟マネジメント」について, 講演の中では, 看護師が主体で行うべきという内容の話があり, リハスタッフとしては不安を感じる事となりました。いかにマネジメントできる人材を育てるかが今後の課題になると考えます。

今回, 私は「自宅復帰③」のセッションで座長を務めさせていただきました。初台リハビリテーション病棟の石川誠先生が「今後は退院後の評価が重要となる」といった内容の講演を全国各地で行っていることもあ



開会式を飾った勇壮な太鼓



多職種が参加する多彩なシンポジウムが開催された

り, 多くの病院が, 現在は保険診療に加味されないにもかかわらず, 退院後に何らかの追跡調査を行っていることを知ることができました。病院から退院できた方がいいが, すぐに生活レベルが低下し寝たきりとなるといった話はよく聞きます。これは回復期リハ病棟に入院中, 本当に患者さんの在宅生活を想定した訓練や指導が行えていたのか疑問の残るところです。「今後の退院後評価」が, 質を高める一つの起爆剤となればと強く感じました。

今回の研究大会は, 北海道から沖縄まで, 1,900名以上の参加者があり, 非常に盛況なものでした。錦海リハビリテーション病院からも10題の演題登録をし, OTのみならず, 医師・PT・ST・看護師・栄養士の総勢14名が参加しました。回復期リハ病棟は, 特に多職種連携が重要とされていますので, これだけの職種で参加できたことは非常に有意義なことであると感じられました。

さまざまな職種のさまざまな視点を知ることができるこの研究大会には, 是非参加すべきであると思います。次回は京都で開催です。また回復期リハ病棟に関わるさまざまな人たちに会えるのを楽しみにしたいと思います。